

# 憲法しんぶん 速報版

**発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）**

Eメール [mail@kenpoukaigi.gr.jp](mailto:mail@kenpoukaigi.gr.jp)      TEL03-3261-9007

ホームページ <http://www.kenpoukaigi.gr.jp>      FAX03-3261-5453

2018年12月24日（月）

NO. 921号

本号3頁

**憲法会議は19日、「防衛大綱・中期防は撤回せよ」との声明を出しました。**

**声明 「専守防衛」をも逸脱する「防衛大綱」・「中期防」は撤回せよ**

安倍内閣は12月18日、新たな防衛力整備の指針「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱」（防衛大綱）と具体的な装備調達を示す次期「中期防衛力整備計画」（中期防）を閣議決定しました。

新防衛大綱と中期防は、「地域と国際社会の安全保障上の急速な変化に対応する」として「多次元統合防衛力」を基本概念とし、宇宙、サイバー、電磁波といった「新たな領域」を加え、「宇宙領域専門部隊」を設置し、「サイバー防衛部隊」を保持し、「領域を横断する作戦」を展開としています。高性能の短距離離陸・垂直着陸機（STOVL機）F35Bなどの運用のために、「いずも型」護衛艦を改修し、事実上の空母化をはかるとしています。

弾道ミサイル攻撃に対する陸上配備型イージス・システム（イージス・アショア）、速やかなオスプレイV-22の配備をすすめ、F35A、35B合わせて105機の導入などをアメリカの有償援助調達（FMS）で整備しようとしています。その費用総額は2019年度から5年間で過去最大となる27兆4700億円にのぼります。

また、辺野古に土砂投入し新たな段階を迎えている新基地建設、全国に配置されている米軍基地と自衛隊の共同運用を推進しようとしています。

防衛大綱で防衛の基本方針は「日本国憲法の下、専守防衛に徹し、他国に脅威を与えるような軍事大国にならない」としていますが、今回の防衛大綱は戦争法（安保法制）の施行や安倍9条改憲の企みのもと、なし崩しの軍拡路線を一気に進め、「専守防衛」すら踏みじり、攻撃型、侵略型の自衛隊にする大転換に他なりません。しかも、安保条約、「日米防衛協力のための指針」（2015年4月27日）にもとづき、日米同盟と安全保障協力を強化するとして、アメリカの求めに何のためらいもなく応じようとするものです。その反面、朝鮮半島・北東アジアの平和・非核化の大きな流れに目をつむり、ひたすら軍拡を強化しようとしています。

憲法会議は憲法の平和原則を踏みにじる防衛大綱・中期防の撤回を求めます。同時に憲法の蹂躪を許さず、守り・生かす立場から、この閣議決定と一体の戦争法（安保法制）の廃止、安倍首相が執拗に狙う憲法9条改悪の断念、「海外で戦争する国」づくりに突き進む安倍政権の退陣を一日も早く実現するよう、連帯してたたかうことを呼びかけます。

2018年12月19日

憲法会議（憲法改悪阻止各界連絡会議）

**いずも改修艦に、米軍機の発着あり得ると、岩屋防衛相**

岩屋毅防衛相は18日の記者会見で、新防衛大綱と中期防に海上自衛隊「いずも」型護衛艦を改修して事実上の航空母艦（空母）とする方針が盛り込まれたことに関して、米軍との共同訓練時や事故などの緊急時に、米軍機がいずも改修艦を発着する可能性があるとの見通しを示しました。岩屋氏は「米軍機が事故で緊急着陸する基地が周辺にない、そこにいずも型護衛艦がある場合、当然救助のため緊急着艦を認めることはある」と説明しました。また「共同訓練の際にもあり得る」と語りました。



とんでもない！まさに専守防衛を逸脱し、アメリカと一緒に戦争するためのいずも型の空母化であり、新防衛大綱・中期防です。ここまでやるとは、とんでもない安倍政権！

# 安倍政権を打倒しようと 2800 人が国会前に集う！

年内最後の総がかり行動実行委員会と全国市民アクション主催の「19日行動」、「安倍9条改憲NO! 安倍政権退陣! 12.19国会議員会館前行動」が国会議員会館前で行われました。寒い中でしたが、2800人が参加し、憲法9条改悪など暴走する安倍政権を来年の参院選で必ず退陣に追い込もうと声を上げました。

参加者が怒ったのは、政府が沖縄・辺野古の米軍新基地建設へ土砂投入を強行したこと。参加者は「辺野古の埋め立て絶対反対」と大きな声でコールしました。

野党から、社民党の福島瑞穂副党首、日本共産党の山下芳生副委員長、立憲民主党の山川百合子衆院議員が駆けつけ、連帯のあいさつを行いました。4議員とも、来年の参院選の重要性を強調し、1人区で野党統一候補者をたて、参院選に勝利し、安倍政権を退陣に追い込もうと訴えました。



山下氏は、さらなる軍拡をねらう防衛大綱を閣議決定し、民意を無視して沖縄・辺野古への土砂投入を強行する安倍政権について「暴走は年の瀬までとまっていない」と批判。市民と野党の力で改憲の動きを止めさせるなど、どの問題でも安倍政権の政治は行き詰っていると強調し、「来年の参院選では必ず野党共闘で勝利し、新しい政治をご一緒につくりましょう」と訴えました。

次に、主催者を代表して、総がかり行動実行委員会共同代表の小田川義和さんがあいさつ。今年1年を振り返り、次々と悪法が強行採決されたが、全国の市民のたたかいが改憲の動きをストップ

させたと指摘し、「立憲主義、民主主義を壊し続ける政治を変えるため、来年は市民と野党の共闘で政治を変える年にしよう」と呼びかけました。

この後、沖縄1坪反戦地主の会、改憲対策法律6団体協議会、品川総がかり実行委員会の各代表が力強く活動を報告しました。

最後に、総がかり実行委員会代表委員の高田健さんが、「憲法審査会への改憲案提出を阻止したのは、沖縄、入管法、水道法などと一緒にたたかった力だ。私たちのたたかいに無駄はない」と語り、「3000万署名運動を進めよう」と呼びかけました。

## 各地のとくくみ

### 新潟 本気の共闘へ 7野党が候補一本化確認

市民連合@新潟は17日夜、野党7党の各県連代表と県内選出の国会議員を招いて「市民公開フォーラム」を新潟市内で開催しました。野党各党は、来年7月の参院選・新潟選挙区（定数1）の候補者の一本化をめざすことを確認しました。



フォーラムには、西村智奈美（立憲民主党）、黒岩宇洋（無所属）、菊田真紀子（無所属）の各衆院議員、森ゆうこ参院議員（自由党）、日本共産党、国民民主党、社民党、新社会党、緑の党の各代表が参加し、市民連合@新潟の佐々木寛共同代表とともに壇上に並びました。

西村議員は参院選について、「みんなで勝つために、候補の一本化に向け努力して行く」と、そして国民民主党の梅谷守県連代表は「1人区は野党統一でたたかうべきだ。私たちも真剣に頑張る」と発言しました。

森議員は「一人に絞っただけでは勝てない。なんとなくの共闘ではなく、本気の共闘を」と強調。共産党の樋渡士自夫県委員長は、「本気の共闘」で投票率が伸び、無党派層の多くが野党に投票したことを紹介し、野党の結束を訴えました。

最後に登壇者全員で手をつなぎ、参加者にアピールしました。

参加した男性は「どんな人を立てて、どのように共闘するのか楽しみ。期待しています」と話しました。

## **鳥取** 「沖縄と連帯するとつとりの会」、「沖縄タイムス」記者招いて講演会

鳥取県の「沖縄と連帯するとつとりの会」は16日、「沖縄タイムス」辺野古・高江担当記者の城間陽介氏を招いて鳥取市で講演会を開催しました。

城間氏は、辺野古新基地建設の埋め立てが始まったのは辺野古湾側で、大浦湾側は水深50メートルと深い上にマヨネーズ上の軟弱地盤で、土壌改良には知事の許可があると指摘。基地建設反対の玉城デニー知事の下ではすすめられないと述べました。

埋め立ての強行は、基地建設の既成事実をつくって県民を諦めさせるためであり、基地を完成させる展望はないと強調。「軟弱地盤の改良には県試算で2兆5千億円以上かかる可能性もあり、いつ完成できるかわからない」と指摘しました。

同会は、県内の自治体に辺野古新基地建設の中止を求める陳情を出したことを紹介し、辺野古への小豆島（香川県）からの土砂搬入の中止を求める署名を呼びかけました。

## **文京区** 区議会3会派が共同街頭リレートークを開催

文京区の白山上交差点で15日、日本共産党（6人）、ぶんきょう未来（7人、立憲民主党・無所属）、みんなの・まちづくり（1人・無所属）の区議会3会派が第2回共同街頭リレートークを開催しました。

各議員は「憲法と暮らし&教育」をテーマに、3会派が議会で求めるに至った共通政策を紹介しました。費用弁償（議会に出席するだけで支給される議員の日当）廃止や、特養・障害者グループホーム増設、学校給食の無償化などを訴えました。

憲法問題をめぐって共産党の島元雅夫区議団長は、暮らしを守る土台は日本国憲法にあり、とりわけ世界に通用する9条をもっと活用していこうと呼びかけ、立憲門主等の松尾明弘氏は、安法制の違憲性を指摘し、安法制下での改憲反対を訴えました。



## **島根** しまね総がかり行動 「国会壊すな」と雨の中70人

島根県の安保関連法（戦争法）の廃止を求める、しまね総がかり行動実行委員会は17日夕方、松江市のJR松江駅前市民と野党の共闘で安倍政権の退陣をめざし、集会を開きました。雨の中、約70人が参加し、「国会壊すな」などとコールを響かせました。

市民と野党の代表がリレートークし、島根大学人の会の関耕平准教授は、安倍政権が狙う憲9条の自衛隊明記など改憲案を提示させなかったと強調。安倍政権を終わらせるには野党共闘が不可欠だとし、「改憲の国民投票に持ち込ませないたたかいを広げよう」と呼びかけました。

日本共産党の尾村利成県議、立憲民主党の角智子県議、社民党の細田実県連幹事長があいさつしました。

参加した女性（66）は「国会を踏みにじって無理やり法案を可決しているのが許せない。改憲は絶対にさせません」と話し、男性（23）は「安倍政権ほどひどい内閣はない。野党のみなさんと力を合わせたい」と語りました。